

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

項目	項目数
理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。

また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名

医療法人 全隆会 指宿みどり館

(ユニット名)

所在地

鹿児島県指宿市東方7521番地3号

(県・市町村名)

記入者名

前原 むつみ

(管理者)

記入日

平成 20年 3月 31日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	その人らしくここが我が家と思って安心して日々の生活を送れるようにとの思いで理念を作っている。当館の基本理念のもと安心して日々の生活を送れるように支援している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	いつでも念頭においてケアに取り組めるように視野にはいるような場所に掲示している。朝の申し送りや定例会等で具体的に話をして共有している。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	家族の方には理念を入居前に説明している。地域の人々には理念を理解してもらえるような取り組みがまだ足りないと思っている。理念を館内に掲示し、地域に対しては運営推進会議等で折りに触れ事業所としての基本理念を説明し理解をいただけるよう伝えている。		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	朝夕・散歩時の挨拶はもとより花や野菜をいただいたりまたこちらから手作りの品物をおすそ分けしたりして気軽なお付き合いが出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への入会がまだできていない現状にあるが夏祭りや運動会の行事には参加させていただいている。みどり館便りも発行して回覧板を通じてホームの活動を地域に紹介している。		新たに地区の公民館長を運営推進会議に参加し理解していただき地区住民の一員として環境を整え地域に協力できるよう努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中でどのようなことが支援できるのか話し合いには出てくるが具体化はされていない。福祉専門学校への受け入れは積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員で自己評価を実施し外部評価による第三者の視点を受け止めスタッフ会議で改善策を検討している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の中で委員の方々の意見やアドバイス等をいただいで実践可能な部分は即実践しサービスの向上に努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の連絡協議会を定期的に行いその中で担当者はもとより他施設との情報交換し質の向上に取り組んでいる。自治会加入また「グループホーム」の理解の為、担当者の方が一緒に出向いて下さっている。中学生の「キャリア・スタート・ウィーク」の受け入れも協力している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員は研修へ参加して知識の習得をし必要な方に関しては支援できるよう橋渡しをしている。		勉強会を開き職員全員が理解を深め知識向上を図っていききたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を活用しスタッフ会議等で虐待となりうる行為を確認し日頃から防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>利用者や家族にはわかりやすく十分な説明を行い理解、同意を得るようにしている。解除の際には他事業所との連携を図り利用者や家族が安心して生活できるよう支援している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>個人記録には利用者の会話をそのまま記載し利用者の不満・苦情が出た時は原因究明をし納得のいくような対応を心がけている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月発行する「みどり館便り」や面会時等に報告している。それとは別に金銭報告や個々の近況報告も同時に行っている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様には家族会や訪問時に声かけを行い本音で相談する関係づくりに努めている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>運営・設備などの要望は積極的に稟議書を提出させ可能な限りほとんど許可している。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>スタッフ1名増員となり利用者様の状況によって柔軟に対応できるよう配置している。必要な場合は出勤人数を調整している。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動等は定期的には行わず固定して安定させています。止むを得ず異動や離職があった場合にも介護職を十分に経験した者を採用しています。</p>		<p>離職を必要最小限に抑える努力としては、職場の対人関係や運営者と職員との対人関係がよくなるように慰安会(飲み会)などを開催しています。職員から運営者への要望は「稟議書」を提出して要望はほとんど実現しています。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じた指導を管理者が計画的に行っています。特に法人内の研修は毎月ニューズレターで研修会の内容、日時、会場などを連絡します。法人外の案内等は運営者または管理者から直ちに通報し参加希望を「稟議書」を提出してほとんど全て許可されます。	隣接している病院と介護老人保健施設主催の研修会や勉強会、さらに行事(運動会、クリスマス会、敬老会)に自由に参加できるようにしています。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者の訪問や見学を積極的に受け入れ一方、他の施設への訪問見学を実施しています。同業者の連絡協議会に積極的に参加して情報収集して質の向上に努めています。	市の担当者が施設の運営推進会議にも参加してもらっているため連携が容易な状況です。さらに他の施設へ訪問、見学を数多く実施したい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	男手の必要な植木の手入れや大工仕事などは、時間的にも無理なので、病院の清掃作業の人達に気軽に依頼するよう指導し、男性利用者と一緒にスムーズに作業をしてもらって助かっています。時々運営者と職員との慰労会をして対人関係のためにもストレス解消のためにも配慮しています。	職員のストレス解消は対人関係と作業条件環境の改善が最も大切であるので運営者も管理者の要望をスムーズに受け入れ時々現場に立ち寄って職員の意見を聞いたり、雰囲気を見に行くことに努めています。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	ケアマネージャーの試験などを目指して勉強するようにすすめ、過去に合格者が4人の実績があります。勉強する雰囲気が出ています。入居者のために働く喜びや向上心を高める指導をしています。	運営者と職員との対話は、運営者の都合でひよっこりホームに行くことが多く、その場で質疑応答をしたり対話をしているが出来れば日時を決めて計画的に実施すれば職員の心構えが出来てよいと考える。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初対面の時はご本人の話をよく聴くことに重点をおきご本人に安心していただいて良き理解者となるよう心がけている。	
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	困っていること、悩んでいること等を聴きご家族の立場になって対応している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>当事業所のサービスに限らずご本人とご家族にとって最善の解決策を探し必要によっては他のサービスの説明や紹介をしたりしている。また定期的に現状を把握している。</p>		
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>ご本人が安心してサービスを利用できるようにスタッフは、事前に情報収集をして話題を作り、利用者様が馴染めるような環境作りをしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊重し出来ること、出来ないことを把握しながら教えていただく場面作りをしている。(料理・ことわざ等)</p>		<p>利用者様の生き活きた表情を見たいので今後も場面作りの拡大を図っていきたい。</p>
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>利用者様の日頃の状況を定期的に報告すると共に連絡を取り合いながら家族と一緒に支えていく関係を築いている。</p>		
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>本人の気持ち、家族の気持ちを尊重しながらこれまでの両者の良い関係を築いていくようにしている。本人・ご家族の思いや状況を見極めながら外出や行事等の参加をしていただき良い関係を築いていけるよう支援している。</p>		
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者様の行きたい所や友人への面会等できる限り支援している。</p>		
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>日々の生活の中で利用者様の個性を尊重し楽しく過ごせる場面作りや橋渡しをしている。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居先に訪問して本人や家族と交流をとりながら情報を聞いている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思表示のできる方々には日々の関わりの中で声かけし把握に努めている。把握の困難な方へは本人の表情・行動・言動により把握している。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・家族からの情報を基に把握している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の本人の行動力や会話の状況を記録に残し現状把握に努めている。また、職員間で情報交換しいるんな眼で見て共有できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族との交流の場を設けた時や面会の際に、ご家族の要望や意見を聞きながら作成している。本人・家族の意向をうかがいスタッフからも情報を得ながらケアプランを作成している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態の変化が見られた場合にはその状況に応じてカンファレンスを行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化等、個人記録に記入し何か気づいた時は気づきノートに記入し情報を共有し介護計画に生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	面会時や電話連絡時等に話を聞いたりして家族の状況や要望に向き合ってその時に必要な支援を柔軟に行えるようにしている。(病院受診・買い物等)		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の民生委員や消防、ボランティアの方等とそれぞれに協力しながら支援している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	地域のケアマネジャーさんが見学に来ていただいたり情報交換を行い協力をしていただいている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特にやっていないが、毎月の機関紙をお届けしたり当館の利用者状況の問い合わせ等はある。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望があれば入居前のかかりつけ医に受診できるように支援し、かかりつけ医とは連絡帳で近況報告し、指導をしていただいている。		

鹿児島県 医療法人全隆会 指宿みどり館

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	職員の話聞いてその状況に応じた適切な指示助言をして くれている。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	同法人の看護師が訪問し日常の健康管理や指導を もらっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	出来る限り職員が面会に行き状況把握に努 めている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者家族が安心してサービスを利用できるように急変時のマニュアルは作成している。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期のマニュアルを作成し家族や利用者の希望にこたえられるようにしているが今後変化することは理解しているが備えて積極的な準備は行っていない。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	家族や本人には十分な説明や移り住む先の訪問をして不安の解消をしてその関係先には状況、習慣、好み等詳細にわたって伝えている。環境の変化に伴う不安や認知症のダメージに留意し把握している情報を最大限に活用し連携をとっている。ご家族の家にも訪問している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個々の生活歴や今までの環境を尊重しながら言葉掛けや対応等には注意をはらっている。個人情報の取り扱いにも注意している。	
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様お一人お一人に合わせ働きかけを変えている。場面ごとで利用者様の意見を聞き働きかけている。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れや時間は決まっているが利用者の希望や状態に合わせて起床、入浴時間、食事にかかわる時間等柔軟に一人ひとりのペースを保てるように支援している。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	個性や好みを大切にした整容の援助を心がけている。おしゃれをすることによって生活のリズムや高揚感を与えるように支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備、片付けを一緒にやっている。職員と共に味かげんを話しながら楽しく食事をしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望んでいる嗜好品は楽しめるように支援を心がけている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を参考に排泄パターンを把握しながらまた行動も観察しトイレ誘導を行っている。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	朝、夕食後の入浴希望の利用者は現段階ではおられず、今までの生活習慣でもない。入浴希望があれば毎日でも入浴できる。利用者の希望を確認しゆっくりと入っていただいている。異性の職員が介助する場合は利用者への配慮に心がけている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	お一人お一人に合わせて休憩や臥床を促すなどの支援を行っている。リビングのソファや畳部屋で休まれる利用者もおられる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事作りや洗濯物たたみなど生活における作業はできるだけ協働できるよう心がけ畑仕事や団子作りなど一人一人の経験や知識を発揮出来るよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる利用者様はおられない。		金銭管理のできない利用者様はお金に触れる機会がない現状なので買い物時お金を支払う機会がもてるよう支援していきたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や郵便物の配達などに付き合っている。また、散歩にも出掛け気分転換を図っている。気候や天候、本人の希望に応じて散歩やドライブを支援し季節感を味わってもらえるよう努めている。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	公共機関へ出掛けたり夜間の外出体験もして利用者から喜ばれた。自宅に帰りたい入居者様へはご家族と相談し帰る機会を設けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を送ったり利用者様にお礼の手紙を書いて頂いている。本人の希望があればご家族にスタッフが電話をかけたりまた家族からも電話がかかってきている。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	行事や館内での出来事を便りに書いてお誘いもしている。また、いつでも気軽に訪問ができるよう理念である笑顔でお迎えしている。家族からも喜ばれている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の病院や介護老人保健施設においても身体拘束については十分に教育指導されておりますのでその人権擁護の重大さは理解され実践しています。		過去においても身体拘束はおこなわれていません。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることは身体拘束でなくても広い意味の拘束ですから人権擁護の立場から行ってはならないことであることの理解は十分にありますが、地域的なリスクを抱えているので入居者の特別な状況以外には鍵を使用しないように努めている。		居室の鍵をすることはありません。しかし、入居者の特別な状況で他の利用者様に著しい迷惑をかける場合に止むを得ず一時的に鍵をしたことがありました。スタッフの体制をかえたりポータブルトイレを居室に設置して様子観察をしていきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	さりげなく利用者様の精神面を感わすことがないよう距離をおいて見守り、夜間の休憩は居室の見通せるホールのソファで休み、利用者の安全に配慮している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	服薬については施錠した部屋に保管し洗剤、刃物等については目に触れない場所に保管している。夜間はガスの元栓やポットの電源は切っている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	アクシデントのみではなくヒヤリハットもスタッフ会議で話し合い原因究明防止に取り組んでいるマニュアルも作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生時には即母体病院に連絡している。応急手当等のマニュアルを作成している。母体病院で訓練を行う時には参加し応急手当の実践練習を交代で行っている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	昼間・夜間両方に想定し訓練をしている。どの様にすれば迅速にできるかスタッフ会議で話し合いを行っている。定期的に訓練を行い昼夜問わず対応できるようにしている。今後も地域の方々々と相談しながら共に助け合えるような関係作りをしていきたい。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	安全を第一に考えているが、日々の生活の中で起こり得るリスクについて説明し家族面談や面会の際に近況を報告すると同時に状態の変化などがあれば対応策、リスクについて説明している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	その日のバイタルの把握に努め表情や言動の変化に気づいたら職員間で早急に情報を共有し対応を行っている。また、気づきノートにも記載している。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんの説明書はファイルして服薬の効用・副作用をしっかり目を通して理解し、症状の変化が生じた場合すぐに主治医に報告し指示をいただいている。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維の多い野菜やヨーグルト等を活用しスムーズな便通に配慮している。腹部のマッサージや散歩も取り入れているがそれでも改善されない場合は医師へ相談し対応していただいている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行っており個々に応じて支援を行っている。舌ブラシ等も活用している。		定期的に口腔ケアの為に歯科受診をおこない指導を受けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士に相談して助言をいただいている。個々の状況によってミキサー食やきざみ食にしたり好き嫌いのある方には調理法を変えたり食をそそるような盛り付けにも努めている。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策のマニュアルを作成しマニュアル通りできるように予防接種、定期健診も行っている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	一日おきに買い物に行き新鮮な物を買っている。食品については、日付チェックや加熱処理を行っている。台所の整理整頓を心がけ調理用具等は夜間にハイターや熱湯消毒を行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには四季折々の草花を植えて違和感なくいつでも安心して気軽に出入りができるように心がけている。和・洋取り入れて気分転換も図っている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	館内には季節の花々を飾ったりその場所々に合った装飾でアットホームな雰囲気作りを工夫している。天候によって、廊下が暗く感じる時は電気をつけたりしている。畳部屋は直射日光が入るので夏場はよしずを立てて対応している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置いてくつろいでいただき、和室は狭いながらも寝転がれるような空間を確保し座椅子も置いて自由にくつろげるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の愛着のある家具や思い出の写真などを持ち込んで居心地のよい居室作りを工夫している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	共有スペース・居室とも室温や気候を考慮しながら適切な時間に換気を行っている。また、利用者様の発汗や冷えなど状態観察しながら温度調節をおこなったり洋服で調整している。夏場は自然の風が入れるよう開放し冬場は適度の運動も心がけている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの身体機能を活かして自分の力で歩行していく動線を把握して手すりやタンス等で補助できるように設置している。脱衣場にも安心して風呂場に行けるように手すりを設置した。		浴槽は何処に必要かみきわめ話し合っていきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのわかる力を把握し混乱や失敗を招かないよう言葉には気をつけている。個々の居室前の表札を目印となるものを使用したり本人と一緒に作成している方もいらっしゃる。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には洗濯物干し場があり一緒に干したり四季折々の野菜や草花等も植えており水かけや草取りをやっていただいている。畑をしていた利用者様には個人のスペースを作り本人に管理していただいて育つ姿を楽しまれている。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらい	
		利用者の1/3くらい	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

鹿児島県 医療法人全隆会 指宿みどり館

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・庭の畑の手入れをしながら、四季折々野菜を作り一緒に収穫・調理そして食卓に出して一連の流れを語り合いながら共同生活を楽しんでいただけるよう支援している。
- ・スタッフ会議後に時に茶話会等を設け、和気あいあいとした中での様々な意見交換もしてチームワークがとれている。